



ザ・リッツ・カールトン北京の正面エントランス。規模の割にはやや抑え気味の玄関で好感が持てる

ザ・リッツ・カールトン北京 The Ritz-Carlton Beijing

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



クラシカルなエントランスロビー。正面に見えるコンシェルジュと手前にあるレセプションデスクが向き合っている形だ



16階にあるクラブラウンジのレセプション。きめ細やかなホスピタリティーでゲストに対応している



さり気なく絵画やクラシカルな調度品を配した重厚な雰囲気の廊下

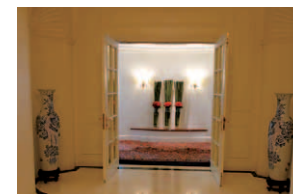


筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。
www.jhrca.com/worldhotel



アプローチにあるホテル案内標から望むザ・リッツ・カールトン北京の正面ファサード。ビジネスの中心街、国貿・CBD地区に立地する。同じ敷地内右隣にはJWマリオット北京が建つ



中国趣味が漂うクラブラウンジのエントランス



ゴージャスなクラブラウンジ内部。1日5回のフード&ビバレッジのプレゼンテーションが楽しめる



最上階にある古典的な趣のスイミングプール



「The Ritz-Carlton Spa」内部にあるシャワーブース前のパウダールーム



コンテンポラリー感覚の広東料理ダイニング「Yu、玉」。翡翠をイメージしたエレガントな店内だ



重厚な雰囲気が漂うメインバー「The Ritz-Carlton Bar」



ザ・リッツ・カールトン本来の王道を行く、重厚な古典的質感が漂う客室。この部屋は15階ガーデンビューの「Deluxe Club Room King」で48㎡の広さを誇る



使い勝手の良い充分な広さのバスルーム

玄関ホワイエ側から俯瞰したベッドルーム。内側のレースと遮光カーテンは電動で開閉する

北京には二つのリッツ・カールトンがある。一つは2006年に先行して開業したザ・リッツ・カールトン、フィナンシャルストリート「The Ritz-Carlton Financial Street」で、NYのウォールストリートを参考にした北京金融街に立地する。もう一つは今回掲載するザ・リッツ・カールトン北京「The Ritz-Carlton Beijing」(以下RC/北京)で、建設ラッシュに沸くビジネスの中心街、国貿・CBD地区にある。CBDとは、「Central Business District」の略称で、超高層ビルが林立する北京を代表するビジネスエリアだ。地区内には、駐北京外国代表機関、金融・保険・証券会社、会計事務所など世界的企業3000社余りが進出し、世界を代表する高級ホテルも数多く集まっている。また、奇抜な外観で話題の中国中央電視台(CCTV)や北京最高層74階建ての国貿三期(国際貿易センター第三期)もこのエリアにある。

RC/北京は08年の北京オリンピック開催に合わせて、07年12月に開業を果たした。最近の流行である高層ビルのフロアをホテルに転用する方式ではなく、建物1棟が丸ごとホテルとして設計された。実は同じ敷地内に、JWマリオット北京も1棟全体がホテルとして同年11月に開業している。この同じグループホテルはそれぞれ客層が異なるため効率がよく、二つのホテルは仲良く並んで建っている。1998年にリッツ・カールトンがマリオット・インターナショナルInc.の傘下に入り、02年に元CEOホルスト・シュルツ氏が退任した後に、このようなマリオットとのコラボレーションとして、2軒のホテルが隣あわせて開業することが多くなっている。(本誌Vol 7、Ritz-Carlton, LA Live参照)

RC/北京はスイートを含む全320室のゲストルームを有し、モダンな印象を受けるリッツ・カールトン、フィナンシャルストリートとは一線を画し、重厚な英国調マナーハウスを彷彿させるインテリア・デザインである。16階にあるクラブラウンジでは1日5回のフード&ビバレッジ・プレゼンテーションがあり、きめ細やかなホスピタリティーでゲストに対応している。最上階17階にはスパ「The Ritz-Carlton Spa Beijing」があり、ジムや古典的雰囲気のスイミングプールで汗を流せる。その他レストラン関係では翡翠をイメージした広東料理のメインダイニング「Yu、玉」、イタリアンの「Barolo」、重厚な雰囲気のメインバー「The Ritz-Carlton Bar」などがホテル2階部分に集まっている。

北京には上海外灘にあるような重厚感あふれる歴史的な西欧建築があまりない。したがって北京貴賓楼飯店のような中国趣味のホテルは別として、北京飯店B座の系譜を持つクラシカルな「ラッフルズ北京」のような、古い建物を修復したヨーロッパアンティストのホテルは数少ない。RC/北京は新築のホテルではあるが、リッツ・カールトン本来の王道を行く重厚でエレガントな空気に包まれた貴重なホテルといえよう。